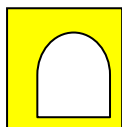


日吉台地下壕保存の会会報



第109号

日吉台地下壕保存の会

2013年度総会のお知らせ

毎年総会案内をお届けするのは、日吉キャンパスがことのほか賑やかなこの季節です。芽吹きをむかえた銀杏並木を、新入生が晴れやかな笑い声をのこして行きかいます。25回目をむかえる2013年度総会が開けるのも、四半世紀の長きに渡り支えてくださっている会員の皆さまのおかげにほかなりません。昨年春には日吉寄宿舍の南寮が再生し、寮生の生活が始まり、12月には横浜市と慶應義塾共催で日吉寄宿舍に関するセミナーが開かれるなど、実り多い一年となりました。

また2012年は、前年の東日本大震災と福島原発事故による被害の大きさとその実態が、さらに明らかになった年でした。地震と津波は人びとの生活を破壊しましたが、もの言わぬ文化財や遺跡をも破壊したのです。私たちが保存し伝えるために活動している「日吉台地下壕」と同じような、東北各地に残されている戦争遺跡も、おそらくは破壊と流出が多くあるのではないかと、危惧しています。

一方で、戦争遺跡どころか、いまでも戦争のなかに置かれている沖縄のような地域もあります。当会会長大西章は、国内留学の制度を使い、琉球大学教育学部で一年間の学生生活をおくりました。その報告を今年の記念講演とさせていただきます。一人でも多くの方にお聞きいただきたく、ご案内いたします。また総会に出席していただき、会へのご理解を深めていただきますようお願いいたします。

記

○日 時：2013年6月1日(土) 13:00～

○会 場：慶應義塾日吉キャンパス 藤山記念館大会議室

○記念講演：13:00～15:00

演 題：「沖縄で見たこと、考えたこと ―琉球大学に一年間留学して―」

講 師：大西 章氏

(慶應義塾高等学校教諭

日吉台地下壕保存の会会長)

○総 会：15:15～

15:45

- ・2012年度活動報告
- ・2012年度決算報告
- ・2013年度活動方針案
- ・2013年度予算案
- ・その他

目 次

お知らせ 2013 年度総会告知	1p
お知らせ 2013 平和のための戦争展 in 横浜 開催	2p
報告 日吉台地下壕保存の会の公開講座に参加して	2～3p
資料 公開講座「慶應義塾の寄宿舍からみえる日本の近代の一側面」(都倉武之)	4～6p
報告 日吉南小学校 6 年 3 組からの質問に答えて	6～8p
資料 戦争遺跡(横須賀・三浦)を巡るバスツアー(新井揆博)	8～13p
資料 日吉キャンパス関係略年表(中沢正子)	13～15p
連載 地下壕設備アレコレ(その2)(山田譲)	15p
連載 地下壕ガイドから一言(10)(石橋星志)	16p
活動の記録 2013 年 1 月～4 月	16p

お知らせ**2013 平和のための戦争展 in よこはま 開催**

吉沢 テイ子

戦後 68 年、横浜大空襲から 68 年の今年の戦争展は『江戸や横浜の歴史から現在と未来を考える』をテーマに、横浜生まれの田中優子法政大学教授や上山和雄横浜開港資料館館長の講演、報告と映像「米軍機墜落事件—沖縄・横浜…」など事実を振り返り、現在と未来をどう歩むべきかを考えるものにしていきたいと考えています。

※編集部より:保存の会もパネル展示で参加します。多くの方のご来場をお待ちしています。

2013 平和のための戦争展 in よこはま

主催 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会

会場 かながわ県民センター

(1) 講演・朗読劇

日時 5月26日(日) 13時30分開場 14時～16時30分

会場 かながわ県民センター2階ホール

内容 挨拶と講演 小山内美江子実行委員長(脚本家)

中学生たちの朗読劇「横浜大空襲」

講演「苦難を乗り越えてきた横浜～関東大震災・空襲・占領」(仮題)

上山和雄さん(横浜開港資料館館長・元横浜市史編集委員、国学院大学教授)

資料代 500円

(2) 講演・報告

日時 6月2日(日) 13時30分開場 14時～16時30分

会場 かながわ県民センター2階ホール

内容 講演「江戸から学ぶ現代」(仮題)

田中優子さん(法政大学教授・江戸学を研究、横浜市生まれ)

報告と映像「米軍機墜落事件—沖縄・横浜・・・」

報告 若い人たちの平和活動

資料代 500円

(3) 展示 横浜大空襲ほか 約500点

日時 5月31日(金)～6月2日(日)

いずれも10時～19時(最終日18時まで)

会場 かながわ県民センター1階展示場

内容 横浜大空襲／学童疎開／教科書／横浜の戦跡／日吉台地下壕／船と戦争／アジアでの戦争／原爆展／占領下の横浜／横浜・沖縄の米軍基地／米軍機墜落事故
原発／憲法9条／平和のバラ／WFP／etc

入場料 無料

報告**日吉台地下壕保存の会公開講座に参加して**

3月9日に保存の会公開講座として、慶應義塾福澤研究センター准教授の都倉武之さんに「慶應義塾の寄宿舍からみえる日本の近代の一側面～日吉寄宿舍リノベーションに寄せて～」というタイトルでお話いただきました。

会の様子や感想を、「港北区歴史を生かしたまちづくりプロジェクト」を進めておられている、港北区区政推進課の小田嶋鉄朗さんが『歴史を生かしたまちづくり通信第27号』にまとめられていますので、許可を得て転載させていただきます。

■ 報告：慶應義塾（日吉）寄宿舍公開講座（3/9）

日吉台地下壕保存の会主催の公開講座に参加しましたので概要について報告します。

- ・ 名称：「慶應義塾の寄宿舍からみえる日本の近代の一側面～日吉寄宿舍リノベーションに寄せて～」
- ・ 日時：平成25年3月9日（土） 午後1時から3時まで
- ・ 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース
- ・ 講義：都倉武之氏（慶應義塾福澤研究センター准教授）

慶應義塾史の研究者である都倉先生による講義で、単に日吉寄宿舍の歴史を説明するのではなく、福澤諭吉の思想や理念、慶應義塾の設立目的、そして三田、天現寺から続く寄宿舍の系譜と日吉寄宿舍の設計や運用が不可分で、むしろ良く実体化しているのではないかというお話でした。

講義では、貴重な写真をたくさん使って解りやすく90分間解説していただきました。



都倉武之氏講演風景

（経緯と特徴など）

- ・ 慶應義塾はもともとイギリスのパブリックスクールをモデルにしたのではないかと推察される。
- ・ 日吉キャンパス設営を担当した理事はオックスフォード出身で後に防衛大学の初代学長となる榎智雄。
- ・ ①学校当局が重要視していた。（東洋一、充実した設備）、②健康・衛生への細心の配慮（採光、排水、入浴、運動施設=浴場にプール、医療体制=医師常駐）③蛮カラではないスマートな塾生文化（いわゆる「慶應ボーイ」）④学校当局と対峙的でない学生自治。（教員の感化を重視=各棟に3人の舎監）などの特徴は福澤諭吉の教育に対する思想を色濃く繁栄しているものであると考えられる。
- ・ 東洋一の寄宿舍として完成したが戦時体制の中、悲運の歴史を辿り徐々に荒廃してきた。海軍に明け渡す直前に残された落書きには世相を反映したものが見られる。
- ・ 寄宿舍南寮の改修をきっかけに、慶應義塾における寄宿舍の歴史的な評価について考える試みが広がった。

（寄宿舍に関するエピソード）

- ・ 当初計画は曾禰中條建築事務所が行っており、その段階で基本的な構成は決まっていた。
- ・ 連合艦隊司令長官が使用したと思われる部屋は南寮の2階にあり、個室3室分を貫通して広く取られていた。
- ・ 米軍接收時にはローマ風呂の浴槽部分はバーカウンターのように使われていた。

などの紹介がありました。

会場には、昭和20年、海軍が退去したあと米軍が来るまでの約2週間の夜間、留守番していた経験を持つ芹澤宏（たかし）氏（昭和20年慶應義塾大学経済学部予科入学）が来場されていて寄宿舍に関するエピソードを披露されました。主な内容は以下のとおり

- ・ 蒲田に住んでいたが空襲で焼け出された。家族は静岡県に移ったが、自分は残りがたかったので教員に相談したところ、野球部合宿所が空いているのでそこにはいれば良いと言われた。

- ・野球部合宿所で過ごしていた時に日吉寄宿舍から海軍が退去し米軍がはいるまでの間、無用心なので、留守番をするように言われた。
 - ・野球部合宿所にいた数名で夜だけ中寮で留守番をした。寮にいった時には、既に将校の姿は無く、曹長級までの人が残って残務整理をしていた。
 - ・留守番をしている間に二度ほど地下壕に入った。入口は南寮と中寮の間。配電盤を開けて通電するとまだ灯りがついた。中には司令長官室と思われる部屋や電探室などがあった。また、恐らく緊急時の発電に使われた自転車の車輪をはずした状態のものなどがあつた。
 - ・南寮2階には指令長官室があり、檜の風呂があり、使用するときには水兵がボイラー室からバケツリレーをして湯を入れたとのことだった。
- ※なお、芹澤氏は竹田行之氏とともに、野球部合宿所退寮後、大倉精神文化研究所の富嶽荘を慶應義塾の寮として借り上げた時期に入寮したという貴重な経験をお持ちとのことでした。

資料

慶應義塾の寄宿舍からみえる近代日本の一側面 —日吉寄宿舍リノベーションに寄せて—

2013/03/09

慶應義塾福澤研究センター 都倉武之

1. 慶應義塾日吉寄宿舍の特徴

- ・学校当局が寄宿舍の存在を重視～「東洋一」、充実した設備
- ・健康・衛生への細心の配慮～採光、排水、入浴、運動施設、医療体制
- ・蛮カラではないスマートな塾生文化～いわゆる「慶應ボーイ」
- ・学校当局と対峙的でない学生自治～教員の感化を重視

2. 学生文化の中の寄宿舍

○歴史上の学生寮…学風の源、独自の文化、教養主義へのノスタルジー

○旧制一高…俗世間との交際を絶ちエリートを育てるための寮
籠城主義…「校外一步皆ナ敵高等学校ハ籠城ナリ」

○独自の風俗・文化…蛮カラ(弊衣破帽・蓬髪・高下駄)
寮歌 コンパ ストーム 蟬勉 寮雨

○寮歌「嗚呼玉杯に花うけて」…栄華の巷低く見て…

○校風論争→集団主義or 個人主義
学生自治or 学校直轄

→特権的学意識の表象(不潔、乱雑を誇る)

→学校当局との一定の緊張関係

○慶應義塾…「慶應義塾の寄宿舍は、慶應義塾其物である」

→寄宿舍は不可分一体の徳育機関という積極的な存在意義

→付随的でなく、義塾の本体である cf. 「入社」と「入塾」

○「慶應ボーイ」(お洒落・温かなイメージ)

○「社中」という思想…教職員寄宿食堂革新同盟団

○健康・衛生への注意…適塾出身の福澤、長与専斎、北里柴三郎
眠・食・学の分離清掃採光・換気
cf. 寮雨と「犬の外小便無用」

○義塾の目的意識…「独立自尊」(≡智徳)の人材育成

教育(実学)+人格(気品)=智徳→社会(=俗世間)の担い手→文明へサイエンス
→「気品」は「独立自尊」と不可分



都倉武之氏

→義塾出身者は社会を文明に導くチーム（社中）

→官尊民卑の打破… 実業界（民）に人材を輩出する慶應

福澤諭吉「慶應義塾の目的」（1896年）

「慶應義塾は単に一所の学塾として自から甘んずるを得ず。其目的は我日本国中に於ける気品の泉源、智徳の模範たらんことを期し、之を實際にしては居家、处世、立国の本旨を明にして、之を口に言ふのみにあらず、躬行実践、以て全社会の先導者たらんことを欲するものなり」

3. 慶應義塾の寄宿舍の変遷

1853年 福澤諭吉、適塾入門→義塾寄宿舍の源流（乱暴の限りを尽くす）

1858年 福澤諭吉、築地鉄砲洲に蘭学塾開塾

福澤と塾生の同居生活（適塾時代と同様の風俗）

1868年 慶應義塾命名、新銭座塾舎完成

→福澤が義塾経営の理念を固める＝寄宿舍文化も確立

木造100人収容規則制定健康・衛生（校庭と運動器具の設置）

1871年 三田寄宿舍

木造数百人収容衛生設備に工夫（新橋駅のモデルに）

1900年 三田寄宿舍

木造400人収容 1F自習室（4人×100室） 2F寝室（8人×50室）

健康・衛生（採光、通風、厨房）、電灯使用、スチーム暖房完備

日本最古の消費組合（寮生の株式組織）

1917年 天現寺寄宿舍

木造240人収容 40人×6棟 構造は三田時代を踏襲 運動設備併設

1937年 日吉寄宿舍

鉄筋コンクリート120人収容 40人×3棟 個室 備品完備 床暖房

健康・衛生（各階水洗トイレ洗濯サービス浴室棟の充実医師常駐）

4. 日吉寄宿舍の悲運

・1937年 「東洋一の寄宿舍」の完成 本来6棟の計画（物資不足で断念？）

・1941年 修業年限短縮始まる 太平洋戦争

・1943年 学徒出陣

・1944年 寮生移転 連合艦隊司令部の使用 地下壕の掘削

・1945年 米軍の接收

・1949年 接收解除 中寮以外徐々に廃墟化

・2012年 南寮の復興

→この歴史を留める寮生の落書き、部屋の改造の痕跡、地下壕

5. むすび

○近代建築＋近代史の証人としての日吉寄宿舍の価値

○慶應義塾の存在意義とは？

○教育とは？ 人を育てるとは？

（参考資料）

天耳生（板倉卓造）「慶應義塾の寄宿舍」（『慶應義塾学報』、1903年10月）

偏狭固陋の教育主義が横行する今の世に、若し私立学校存立の必要がありとすれば、そはこの偏狭固陋の教育主義に対して叛旗を翻へすものでなくてはならぬ、是れ即ち私立学校の

天職で、またその主たる存立条件である。慶應義塾が五十年来、『独立自尊』を標榜して、新教育主義を鼓吹しつつある所以のものは、即ちこの天職を全うせんが為めである。

しかしながら、一言に慶應義塾といへば、何人も三田の丘頭に聳ゆる巍々たる赤煉瓦の建物を聯想するであろうが、慶應義塾の本色は、蓋しこの中央の建物よりも、寧ろ丘の北隅に横臥せる、長方形の寄宿舍に存するのである。

元来学校の学風といふものは、殺風景な講堂内の机の上で製造せらるべきものではない。もともと講堂といふものが、学芸の売買場なので、理屈家は種々の鹿爪らしい理屈を付けて、講堂は神聖だの、何だのと、一応は難有いことをいって見るものの、実は矢ッ張り勸工場の様なもので、教師は売手で、生徒は買手、教師は講堂へ店を張て、生徒が之を買ひに来るといふ仕掛なのである。勸工場から学風が出たためしが無い以上また講堂から学風が湧て来る道理はあるまい。

ケンブリッジ大学や、オックスフォード大学の学風はその寄宿舍に存するといふではないか。本来寄宿舍は学校の中心たるべき所なので、所謂品性の陶冶は、即ち此处で成就さるべきものである。慶應義塾の本色が、その寄宿舍に在るといふのは、取りも直さず之れなので、学校を一家と見れば、講堂はその店頭で、寄宿舍はその家庭である。慶應義塾が五十年来の教育主義は即ち此处で実現せられたので、慶應義塾の寄宿舍は、慶應義塾其物であるといふことが出来る。若しも今此慶應義塾から、その寄宿舍を取去れば、慶應義塾は最早ゼロで、今の偏狭固陋の教育主義に抗戦して「独立自尊」の光輝を発揚すべき、唯一の武器を失ったものといわねばならぬ。

報 告

地下壕見学会 日吉南小学校 6 年 3 組からの質問に答えて

運営委員 喜田美登里

昨年 12 月 7 日に日吉南小学校の 6 年生と先生、112 名を地下壕に案内しました。日吉南小学校は毎年 6 年生の地下壕見学会を行っています。頂いた感想文にあった以下の質問に、ガイドが分担して答えました。その一部を紹介します。

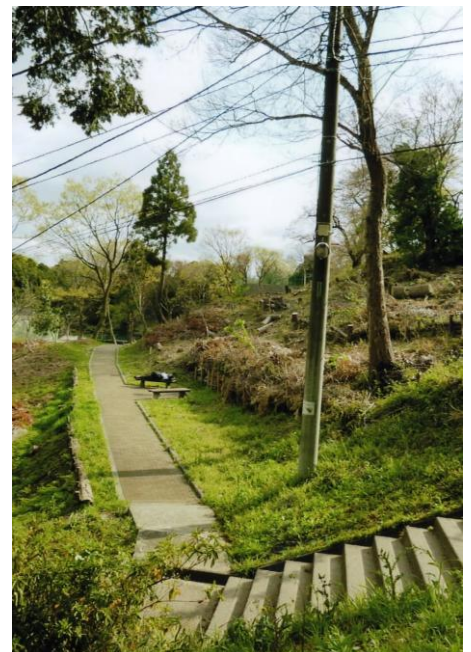
- 1 横浜で一番被害があったところはどこですか
- 2 日吉以外の地下壕はだいたいいくつあるのか
- 3 地下壕を作るのにかかった時間は・地下壕をどうやって掘ったのか
- 4 犬やねこはどうなったか
- 5 兵隊の身長ってかんけいあるんですか
- 6 日本の損害は合計いくらか
- 7 電波はどのくらいまで届いたか
- 8 暗号解読に何分かかるか
- 9 足に巻く「ゲートレ」って何ですか

- 1 横浜で被害があったところはどこですか

回答者：ガイド 茂呂 秀宏

○ 横浜大空襲として回答します。

1945年5月29日、アメリカのB29爆撃機など約600機が横浜上空に現れ、午前9時15分ごろから約1時間、焼夷弾（しょういだん）〔地上の建物に火災を起こすことを目的にした爆弾です。燃えやすい油に発火装置をつけて地上に落とす爆弾です。〕などで市街地を爆撃した。神奈川区の東神奈川駅や青木橋付近、西区の平沼橋付近、中区の官庁街（市役所を中心として、横浜市や神奈川県や国の



地下壕入口付近の樹木が野火、倒木の危険のため伐採されました。クヌギが植樹され数年後にまた林が復活します。楽しみです。

仕事を行う建物やビルがあつまっているところ）と本牧一帯が攻撃目標とされる。

被害は南、磯子、保土ヶ谷、鶴見の各区にわたり、市内約 17.8 平方 km が焼失した。

正確な死者数はいまだ不明であるが、死者・行方不明者は 1 万 5 千人を超えるともいわれる。

落とされた焼夷弾の総量は 2570 トン。約 10 万人の死者を出した東京大空襲（同年 3 月 10 日）の約 1.5 倍にあたとされる。

（2009 年 5 月 29 日の朝日新聞に掲載された「キーワード解説」をやさしくリライトしました）

参考資料

横浜市の公式見解として、市民局の「Q & A よくある質問」にだされた「横浜大空襲について教えてください」という質問に対する回答は以下の通りです。

日 時：昭和 20 年 5 月 29 日 午前 9 時頃から午前 10 時 30 分頃

空襲した爆撃隊：アメリカ第 21 爆撃機集団所属の B 2 9 編隊 5 1 7 機で、マリアナ基地から飛来しました。

投下した焼夷弾の量：総数 438,576 個（2,569, 6 トン）

被 害：中区・南区・西区・神奈川区を中心に、横浜の市街地は猛火につつまれ、死傷者・行方不明者あわせて 14, 157 名、被災家屋 79,017 戸を出し、市街地の 4 4 % が被害をうけました。

4 犬やねこはどうなったのか 回答者：ガイド 喜田 美登里

○戦争で動物たちはどんな影響を受けたか

戦争の頃は人間でも食べ物なくて大変でした。動物園では、動物たちにたべさせるエサもなくなってきました。エサが悪くなったり、少なくなったりして病気になって死んでいった動物もたくさんいました。空襲でオリがこわれたら猛獣が逃げ出して危険だという理由で猛獣たちを殺しなさいという命令がでました。動物園の人たちはみんな動物が大好きですから殺したくはありませんでした。でも、そのころは命令に逆らうことはできません。しかたなく動物たちを殺していったのです。

さて、殺されたのは動物園の動物だけでしょうか？

馬は、戦争に使うためにたくさん戦場に送られました。戦争が終わって帰ってきた馬の話は伝わっていません。

「軍用犬の献納（けんのう）」 民間人が飼い犬を日本陸軍に差し出すことです。シェパードなどの一部犬種は、帝国軍用犬協会を通じて、軍用犬として献納していました。

「犬や猫の供出（きょうしゅつ）・献納」 「供出」も政府の要請に応じてお金や物を差し出すことです。昭和 19 年（1944 年）に軍需省と厚生省が連名で「犬猫の供出命令」を出し、「犬猫の献納運動」が始まったのです。目的は極寒地で使用する毛皮が必要となったためとされています。

ある日こんな回覧板がまわってきて、犬や猫を連れてきなさいと命令されたのです。

『隣組会報 犬の献納運動 私達は勝つために犬の特別攻撃隊を作って敵に体当たりさせて立派な忠犬にしてやりましょう 何が何でも皆さんの犬をお国に献納してください… 』

母に聞いた戦争中の話です。野良猫が赤いものを子猫に食べさせているので、「お刺身」かと思ったら、トマトの切れ端だった。井戸端で野菜を洗っていたらトビ（鳥）が飛んできてナスをつかんでいった。お魚や小動物を食べる生き物も困っていたのです。

4 犬や猫はどうなったのか 回答者：ガイド 中沢 正子

昭和20年、私は東京都中野区上町に住んでいました。家の裏の家は軍服につける徽章を作る所で、2階に職人さんがいて金糸などを使って刺繍をしていました。その家にこげ茶色に

茶や赤がまざった甲斐犬「チャメ」がいました。おとなしく、かしこく、近所の悪童どもが可愛がって体をなでていました。その犬は私（新小学2年）たちが島根県の宍道湖のほとりの町、宍道町に疎開する日、昭和20年4月2日は元気に過ごしていました。

私たちが疎開したあと、父と祖母が残っていたのですが、5月26日の大空襲で我が家の裏の家、徽章をつくる家まで焼けました。その家の裏の焼け残った家に、焼け出された人たちがお世話になったと父たちが話していましたが、犬の話は聞きもらしました。かしこい犬でしたから生き延びたと思います。今でもチャメが忘れられず、甲斐犬を見ると近寄ってはほえられています。

9 足に巻く、ゲートルとは何ですか 回答者：ガイド 喜田 美登里

○「ゲートル」の事かと思います。

西洋型脚絆（きゃはん）・巻き脚絆・巻きゲートルとも言います。現在のファッションでは「レギンス」とか「スパッツ」などが身近にありますが元々は「ゲートル」の仲間です。

本来、活動時や長期歩行時にズボンの裾（すそ）が障害物にからまったりしないよう裾を押さえ、脛（すね）を保護し、足首を圧迫しうっ血を防いで血流をよくするなどの目的で包帯状の細い布を足に巻いて使います。

世界の軍隊の軍装としては第一次世界大戦頃までは長靴（ちょうか）とともに各国の陸軍を中心に広く用いられました。欠点としては、上手に巻くには慣れ（なれ）が必要で、高温多湿の環境下ではシラミなどの害虫の温床になりやすい。戦後に編上げ式の半長靴が普及するにつれてとって代わられました。

民間でも、肉体労働時などに広く普及していました。

報 告 ・ 資 料

戦争遺跡（横須賀・三浦）を巡るバスツアー

運営委員 新井揆博

前号に続き、昨秋に2回行った横須賀・三浦の戦争遺跡見学バスツアーの10月14日配布の資料を一部省略してご紹介いたします。

6 第一海軍技術廠残存研究所・工場 ～現在残っている空技廠跡の研究所・工場～

2001年時点で17棟確認されていたが、2008年までに4棟が取り壊され、徐々に姿を消しつつある。

現在、庁舎の東となりの③図書庫と④電話交換所建物、その隣にある⑩第4研究所が残っており日本和紡興業株式会社が使用している。コの字形をした⑫艦装兵器構造力学研究場も残っている。このほか⑪第一工場（岡村製作所株式会社）。⑦第一研究場（青木製作所株式会社）。⑭第四風洞場、⑬高压風洞場・⑭高速風洞場、⑮製図工場などの建物（東邦化学工業）。また遺構が残る⑬⑭⑮「等速実験水槽」？は世界レベルの飛行機のフロート実験施設であった。

（文中○数字は『新横須賀市史別編文化遺産』p121～123 図41の記載番号で本資料10・11参照）



破壊される前の第一海軍
技術廠庁舎（空技廠）



空技廠高压風洞場



昭和天皇行幸碑

7 横須賀海軍工廠造兵部（東芝ライテックその他）

◎ 海軍工廠

海軍工廠は、鎮守府と海軍艦政本部に所属していた。横須賀（慶応2年、横須賀市）・呉（明治19年、呉市）佐世保（明治19年、佐世保市）・舞鶴（明治19年発足、昭和11年工廠、舞鶴市）・広（大正9年支廠、12年工廠、呉市）・豊川（昭和14年、豊川市）・光（昭和15年、光市）・鈴鹿（昭和18年、鈴鹿市）・多賀城（昭和18年、多賀城市）・相模（昭和18年、神奈川県）・沼津（昭和18年、沼津市）・川棚（昭和18年、長崎県）の12工廠があったが、横須賀海軍工廠はこれらの施設の中核的な役割をしてきた。昭和20年8月の終戦時に工廠は作業部4（造船・造兵・造機・潜水艦）と実験部5（機雷・機関・光学・航海・電池）があり、労働者数は8万7500人。工廠の地域は造船・造機が横須賀本町地域。造兵・軍需は田浦・船越地域。航空技術廠は追浜地域と大別できた。

『よこすか中央地域町の発展史3』一軍港都市横須賀の戦中・戦後の暮らし一

◎横須賀海軍工廠造兵部

○造兵部機銃工場の略歴

1933（昭和8）年、日本国内で製造した機銃は、昭和7（1932）年度に口径7.7mm及び7.9mmのものが100挺、昭和8年度にはその他の口径とも260挺という小規模のものであった。当時横須賀海軍工廠では、造兵部砲^{ほうこ}煩工場^{わづ}で口径12.7mm及び7.7mmの機銃を修理していたが、機銃の自給計画がたてられ、艦船用機銃は機構簡単で性能の高いフランスのホチキス式を採用することになり、横須賀工廠でこれを製造することとなった。設計・製造の技術者養成のため、部員級及び優秀なる直作業員を10数名を半年ないし1年半程度ホチキス社に派遣した。これらの者は順次新設機銃工場の要員となった。

1934（昭和9）年5月、飛行機工場が追浜（浦郷）移転した造兵部内の跡地に、鉄骨コンクリート3階建て（4209 m²）、また同12月には（3150 m²）の機銃工場が新築落成した。

1935（昭和10）年4月、海軍大佐上野治作は、横須賀海軍工廠造兵部員に補任されて機銃工場創設を担当し、当時の砲煩工場主任清水文雄造兵大佐の協力を得て、機銃工場設置と共に初代機銃工場主任に任ぜられた。

1936（昭和11）年2月、鉄筋コンクリート2階家（630 m²）が増築された。また裏側の防備隊（今の田浦中学）の丘の下にトンネルを掘って機銃射場とした

1937（昭和12）年6月、職制上機銃工場が設置された。

従業員数：約2000名（徴用工員を含む）

主要製品：機銃（口径40mm・25mm・13mm・7.7mm）、機銃弾の弾体・薬きょう
機銃関係の研究開発及び試作等は横須賀海軍工廠の役割であった。時局と共に機銃関係兵器量産の要請から、豊川工廠その他での生産に発展したが、技術要員の教育と供給源として果たした役割は大きかった。

○終戦時の造兵部砲^{ほうこ}煩工場

当工場は大・中・小口径砲の艤装修理及び50口径3年式12.7cm連装砲塔50口径41式15cm連装砲塔等の連続製造を専業としてきたが、終戦時には既にこれらの正常作業は殆ど中止され、小艦艇輸送船の艤装修理、陸上兵装及び緊急対策兵器の製造などが主体となっていた。また工場も4か所に分散疎開され、防空壕（地下壕）内での作業も多くなった。

以上の概要を一覧表にまとめたものが次表である。

陸上兵装は内外地の防空砲台、平射砲台の設営が主で、特に南北方及び小笠原諸島など外地での作業は困難を極め、出張者より多数の戦没者を出していた。

緊急対策兵器は単12cm単装砲、単20cm単装砲を主体とするほか、各種小兵器の仕上組

立を行っていたが、これらの部品の大部分は大阪・名古屋・浜松・関東北部・北海道に及ぶ広域地域区の50社を数える大小製造会社に発注して製造したものである。このほか8cm迫撃砲は、横須賀海軍工廠川崎分工場を組み立て製作されていた。

小兵器の仕上組立及び薬きょう修理には、多数の動員学徒が従事した。国民総武装兵器として製作していた簡易小銃は、先端を鋭角に切断した鋼管に木製の台座を取り付けたものであり、弾丸も丸棒鋼を切断したものであった。また簡易手榴弾は直径60mm位の鋼管を長さ100mm位に切断して両端を木栓で塞ぎ、中に爆薬を装入するといったきわめて簡単なものであった。
(『横須賀海軍工廠外史』改訂版)

海軍工廠造兵部残存建物（現東芝ライテックその他）

現建物の名称	旧建物名称	旧番号	年 代、
東芝	100号 庁舎	1	1912（大正2）年5月
ライテック	101号 製図工場	2	1934（昭和9）年5月
株式会社	102号 機銃工場	4	1934（昭和9）年5月
〃	103号 物品納入および検査場	9	1941（昭和16）年2月
〃	104号 焼き入れ工場	8	1934（昭和9）年12月
〃	107号 第三十二材料倉庫（会計部所属）	6	1939（昭和14）年4月
〃	109号 烹炊場	7	1936（昭和11）年3月
〃	122号 製図工場図庫	3	1934（昭和9）年10月
〃	200号 電気工場	13	1936（昭和11）年3月
〃	203号 鍛錬工場汽缶場	16	1912（大正2）年5月
〃	204号 発電工場	15	1929（昭和4）年3月
〃	205号 発電工場事務所	17	1929（昭和4）年3月
〃	206号 鍛錬工場事務所	18	1886（明治19）年2月か
海上自衛隊横須賀	I-15 砲架組立工場	22	1915（大正5）年
造修補給所工作部	I-16 砲煩工場	23	1915（大正5）年
〃	I-18 砲塔工場	24	1913（大正2）年
(株)関東自動車総合工場	機械工場	27	1912（明治45）年
日立エンジニアリ	水雷工場	28	年代不詳
ング・アンド・サ	機械工場	30	年代不詳
ービス	機雷及び音響工場	31	年代不詳

(『新横須賀市史別編文化遺産』 p132～3 図44 表5・6 本資料11参照)

8 田浦軍需部倉庫

砲弾・魚雷などの兵器から軍艦で使う燃料・食糧・被服までの一切の軍需物資を集め保管していた。戦前の施設は最近まで約20棟あったが多くが壊されつつある。最近^{ひょう}は自衛隊の再編もあり比与宇の弾薬庫も様変わりしつつある。

(『新横須賀市史別編文化遺産』 146～147p 図49 本資料12参照)



F 倉庫（旧第三水雷庫）



第一・二・三飛行機倉庫



第三爆弾庫

9 ヴェルニー公園（大型駐車場予約）

ヴェルニー記念館（入館無料）には、横須賀製鉄所が使っていた3t、0.5tのスチームハンマー（国指定重要文化財）が置かれている。逸見波止場衛門、小栗上野介の胸像、ヴェルニー胸像、横須賀本港には日米艦船が、対岸には第一・第二・第三ドライドックが見える。

10 城ヶ島砲台

◎三浦市の戦争遺跡（概略）

○要塞地帯防衛のための砲台設置

1899（明治32）年 要塞地帯法により三浦半島が要塞地帯になる。

観音崎や猿島、第3海堡等を整備。

1921（大正10）年 三崎砲台（榴弾砲4門）が竣工したが、1923（大正12）年関東大震災で損壊。

1924（大正13）年 参謀本部が三崎砲台の修繕、城ヶ島砲台と ^{つるぎざき} 剣崎砲台の新設を決定する。

1929（昭和4）年 城ヶ島砲台と剣崎砲台が竣工する。

○本土決戦のための特攻基地と沿岸陣地

特攻基地

油壺に特殊潜航艇「海龍」・「震洋」の基地。松輪に特攻艇「震洋」の基地。

野比に特攻兵器「伏龍」の基地

沿岸陣地

金田湾にトーチカ

上宮田に野砲2門の臨時砲台が設置

高貫に15cmカノン砲1門の洞窟砲台

岩浦に洞窟砲台

剣崎に狙撃用洞窟陣地

浜諸磯に15cmカノン砲2門の洞窟砲台、8cmカノン砲1門の洞窟陣地

三戸に狙撃洞窟陣地

黒崎に15cmカノン砲3門の洞窟砲台

長浜に狙撃洞窟陣地

◎城ヶ島砲台

かつては城ヶ島の東半分が砲台用地であった。現在、神奈川県立城ヶ島公園。砲塔は45口径25cmカノン砲2基4門が設置されていたが、今は地下構造物が残り、入り口には迷彩模様が描かれている。

○遺跡の立地・現況…県立駐車場から県立城ヶ島公園にかけての一带。駐車場の花壇になっている場所に第一砲塔、公園の公衆トイレのあたりに第二砲塔が、公園内の東へ緩やかに傾斜する広場(字安房崎)の展望台のところに主観測所跡がある。

○遺構の状況…第一・第二砲台ともに、揚薬井上下室、暗路、砲台火薬庫の地下室施設は現存している。扉等は取り外されているが、出入り口の外壁に当時の迷彩色塗装が残っている。

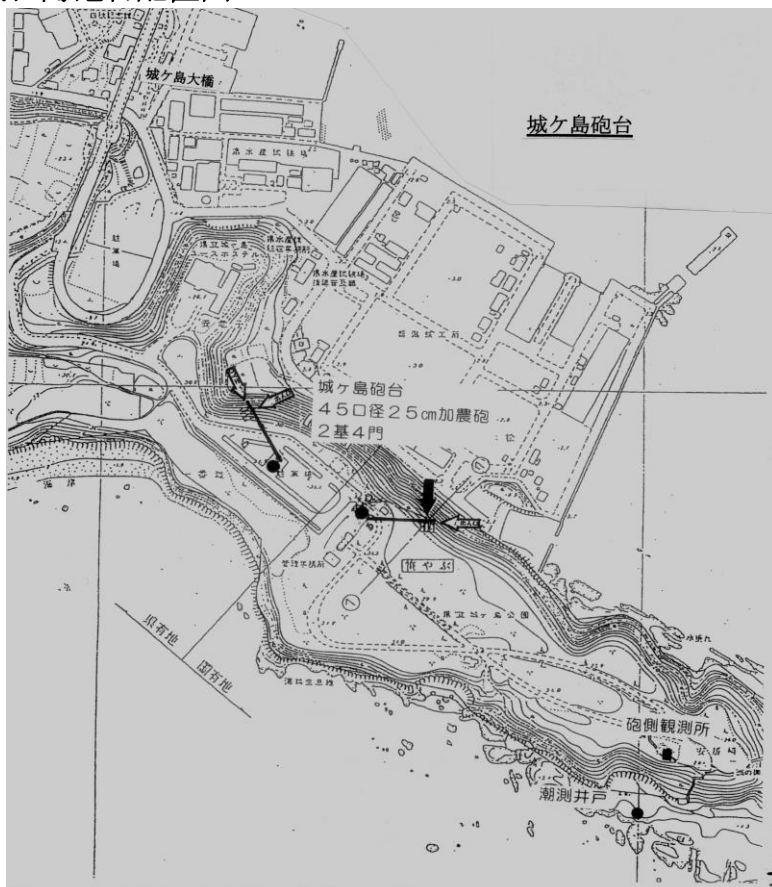
主観測所の遺構は、展望台の基礎部として利用され、内部は物置となっている。弾薬庫は、城ヶ島大橋を渡ったカーブのところにあったが、駐車場建設で消滅。詳細は不明。

○歴史的経緯(起工:1924(大正13)年10月12日 竣工:昭和4年3月16日 廃止:)

城ヶ島の東半分を砲台敷地として占めていた。敷地面 55303 坪 (約 182500 m²)

1921 (大正 10) 年ワシントン軍縮会議により廃艦となった戦艦「安芸」の一番・二番副砲であった45口径25cm連装砲塔を転用して備え付けたもの。着工から完成までの経費は、48万2090円。

城ヶ島砲台配置図



城ヶ島砲台に設置された 45 口径 25 cm カノン砲塔保台。もとは戦艦「安芸」の副砲塔。
(金沢 清氏提供)



城ヶ島第二砲台入坑部

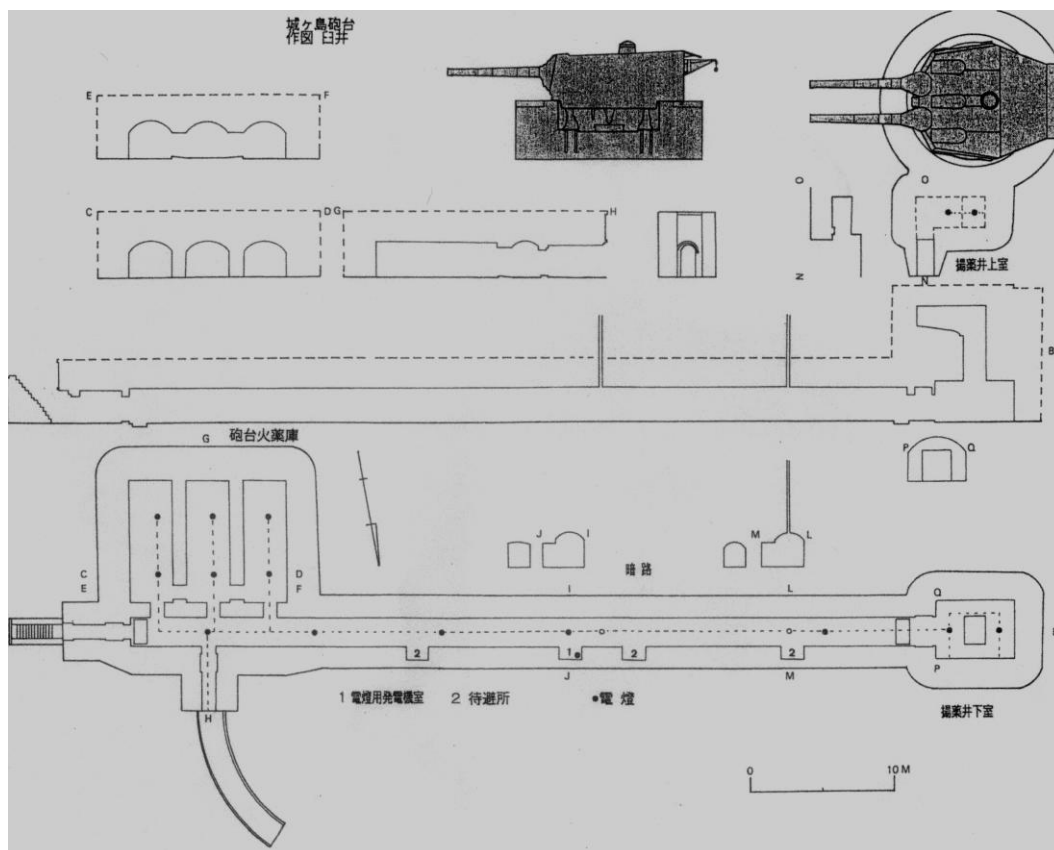


城ヶ島第一砲台内部



城ヶ島砲台砲側観測所

城ヶ島砲台地下配置図



以下省略した資料

- p 1 0 「昭和 20 年頃にあった夏島・浦郷地域にあった旧軍施設」地図
 p 1 1 「」船越地域 地図
 P 1 2 「」田浦地域 地図
 p 1 3 海軍の造兵事業・砲煩兵器の生産

以上 見学資料作成 新井揆博

資 料

2012ガイド養成講座第4回

2012年6月9日

連合艦隊司令部が置かれた寄宿舍の歴史と現状

戦前戦後の使われ方・建築物の価値

中沢 正子

※編集部より 昨年のガイド養成講座のレジュメより、前半の年表部分を今回は掲載します。
 後半の中沢さんの体験も交えた寄宿舍の戦後の使われ方は、次号掲載予定です。

日吉キャンパス関係略年表(訂正版)

★『創立百二十五年慶應義塾年表』から日吉キャンパスの中で地下壕保存の会に関連する主な事項を抜き出してみる。

昭和3年10月 東京横浜電鉄より学校用地寄贈の申し出あり。5年2月契約締結

6年5月 三田史学会中心に発掘調査開始。11年12月竪穴住居址5基を永久保存

8年10月 日吉建設資金募集趣意書発表

9年4月 第一校舎竣工。4月新入生入学式、5月授業開始

〃5月 陸上競技場開場式

〃 11月 「福澤先生誕生百年並日吉開校記念祝賀会」大講堂〈三田〉にて開催。3,4日を「日吉デー」とし、塾員、関係者に構内を開放。リーフレット「日吉建設工事の概要」を配布。

〃 11月 学生食堂「赤屋根」竣工

10年10月 体育会事務所(日吉校内の最南端、20年4月戦災で焼失)〈現テニスコー

- ト付近)、浴場落成式、柔剣道場開き举行
- 11年2月 第二校舎竣工
- 12年8月 日吉寄宿舍竣工。9月10日開舎
- 〃 10月 基督教青年会日吉ホール完成献堂式及び寄贈式
- 13年6月 藤原銀次郎、工業大学設立につき塾長小泉信三と初対談
- 14年6月 藤原工業大学開校式举行。9月藤原工大予科校舎竣工(西北の地、移築、新築 20年4月戦災で焼失)〈現塾生会館付近〉
- 18年11月 藤原工科大学部校舎14棟竣工。(20年4月戦災でほとんど焼失)〈現図書館、第四校舎付近〉
- 18年11月 日吉の競技場に予科生を集めて5百名の壮行会举行
- 19年2月 文部省の要請により三田第五館および商工学校校舎、日吉予科第一校舎供出承認(三田は6月15日より東部第六部隊に、日吉は3月10日より海軍軍令部、連合艦隊本部その他に貸与)
- 〃 3月 藤山工業図書館(2年雷太設立)愛一郎より寄付。(32年7月に売却。蔵書は工学部および日吉に移管。創立百年記念事業として日吉に図書館新築の際「慶應義塾藤山記念日吉図書館の名を付し、篤志を記念」。〈現藤山記念館〉
- 〃 3月 獣医畜産専門学校開設 基礎教育は第二校舎、北側に実験室を設く。野球場・サッカー、ラグビー場などを農場予定地とす。23年新学制により開設の農業高校に転換〈19~20年は学制の変動多し。これは1例〉
- 〃 8月 大学に工学部増設 藤原工大の寄付による
- 〃 10月 工学部ロッカー室を海軍水路部に貸与〈第二校舎裏あたり〉
- 20年5月 海軍艦政本部の要請により工学部機械工学科の工作機械を多賀城海軍工廠に貸与。〈返還や行方不明、補償金等のいきさつあり。38年6月にも返還をみる〉
- 〃 7月 戦時教育令および同施行に基づき学徒隊規則制定
- 〃 9月 アメリカ軍により日吉校内の施設接收される
- 21年3月 接收中の赤屋根食堂焼失
- 24年6月 日吉返還につき非公式通知
- 〃 10月 日吉返還式、第二校舎正面ポーチ上にて举行
- 〃 10月 高等学校日吉移転、11日より授業開始
- 25年4月 大学第1、2学年(教養課程)日吉にて授業開始
- 26年4月 旧北寮を研究室に改造移転 35年9月書庫11坪余増築
- 27年10月 日吉の寄宿舍、アメリカ軍旧兵舎を改修した木造のものより旧中寮へ移転(木造寄宿舍撤去、鉄筋校舎建設)
- 28年9月 第三校舎竣工〈建替えられ現塾生会館〉
- 〃 10月 ローイングプール竣工。試漕式举行
- 29年3月 南寮、日米交換留学生収容のため改修
- 〃 6月 日吉バラック取りこわし開始、32年までに全部撤廃
- 32年10月 返還保留中の日吉寄宿舍わきのアメリカ軍貸与土地返還さる
- 〃 12月 第四校舎竣工
- 33年4月 斯道文庫、麻生太賀吉より寄贈。南寮を改造して収納。35年12月開所。37年10月三田の図書館に移る
- 〃 8月 日吉図書館落成式举行。慶應義塾藤山記念日吉図書館と命名の式举行
- 〃 10月 日吉記念館落成式举行
- 〃 11月 創立百年記念式典を日吉記念館にて举行
- 38年5月 高等学校日吉会堂竣工式举行

39年8月 日吉研究室第四校舎新築棟完成 9月初旬北寮より移転完了

「昭和20年7月戦時教育令および同施行に基づき学徒隊規則制定」が気になるので『太平洋戦争下の学校生活』 岡野薫子著 新潮社 1990 をあげてみる。

5月22日 戦時教育令公布の上諭（天皇の言葉）と共に文部省から公布された。

「第一条 学徒は尽忠以て国運を双肩に担い戦時に緊切なる要務に挺身し平素鍛錬せる教育の成果を遺憾なく発揮すると共に智能の錬磨に力るを以て本文とすべし」

緊切なる要務とは、「食糧増産、軍需生産、防空防衛、重要研究等」である事が第三条に示されていた。

連載

地下壕設備アレコレ【その7】排水一溝・マス・土管一

運営委員 山田 譲

日吉の地下壕の設備としての生命線をなすものは、照明、排水、通気の3つです。このうち、どれひとつが欠けても地下壕は使えません。今回は、このうちの排水の話です。

マムシ谷から地下壕に入ると、左に曲がる角のところの床に四角い鉄板がしかれています。この鉄板は慶應義塾が壕内整備の時、敷いたものですが、その下に排水マスがあります。コンクリートの四角い枠になっていて一辺が67cm、深さは50cmです。このマスの各辺には丸い穴があいています。他方、地下壕の壁の下には幅10cm位の浅い溝があり、壁面にしみだしてくる地下水はこの溝に落ちていきます。この溝は、所々で先ほどの排水マスにつながっています。地下水はこの排水マスに流れ込みます。そして排水マスから地下壕の床下にある内径22cmの土管へと流れていきます。

さらに地下壕をすすむと、左右両側にあった溝が床面中央に変わります。私たちが見学者をガイドするとき、危険なので注意するところです。この床面中央の排水溝は、当時は木のフタをかぶせてあったようです。通信室にも同様の溝が部屋の中央にあり、木のフタをのせられるように溝の肩のところに浅い段差がつけられています。他方、地下作戦室には部屋の両脇の壁の下に排水溝がつくられています。

地下壕は全体にゆるやかな勾配がつけられており、壕内に入り込んだ地下水がスムーズに流れて行くようになっています。そして最後は南東側の農家の敷地内の小さな池に流れて行き、壕の外に出ていきます。この位置が地下壕内で最も低い場所になります。作戦室はここより少し高くなっています。通信室や長官室、バッテリー室などは作戦室より少しだけ低くなっています。

このように、地下壕内が地下水でビショビショにならないように、きちんと設計、測量、施工されていたわけです。ちなみに沖縄の海軍司令部地下壕にも、トンネルの両脇に排水溝が掘られていました。地下壕に地下水は付き物ですから、排水対策は第一の要件だったとおもわれます。



航空本部地下壕の排水マス

連載

地下壕ガイドから一言 (10) 「ガイドがうまい」って何だ!?

運営委員 石橋星志

日吉のガイドを始めてもう6年、昨年30歳になりました。感想はありがたいのですが、「ガイドがうまい」と書かれると悩みます。体験がないのに、ガイド「だけが」うまいのでは、困ったもの。事実関係を必死に考えて、戦跡と生きた人の姿の関わりのイメージを固め、例を挙げて、伝わるようにとやっても、何か違うと感じ、また考える日々。

少し得心して、考え・悩むことがガイドを磨くのだ、という事に思い至りました。

活動の記録

2013年1月～4月

- 1/26 定例見学会 31名 地下壕ガイド親睦会
 2/4 会報108号発送(日吉地区センター)
 2/16 ガイド学習会(菊名フラット)
 2/23 定例見学会 25名
 2/25 地下壕見学会 朝日クラブ 13名
 3/4 地下壕見学会 田園調布学園高校生・先生・保護者 31名
 3/8 地下壕見学会 湘北退職女性教師の会 23名
 3/9 公開講座「慶應義塾の寄宿舎から見える日本の近代の一側面 ―日吉寄宿舎リノベーションによせて―」都倉武之慶應義塾大学准教授
 (来往舎シンポジウムスペース) 参加者50名
 3/11 運営委員会 (日吉地区センター)
 3/14 地下壕見学会 下田町自治会 47名
 3/23 定例見学会 47名
 地下壕①―B 航空本部等地下壕東側入口で開発工事開始
 3/31 ガイド学習会(菊名フラット)
 4/3 運営委員会(慶応高校物理教室)
 4/13 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座・第1回(来往舎大会議室)
 4/15 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
 4/17 地下壕見学会 やすらぎ会 17名
- 広報よこはま港北区版3月号「港北めぐり」に紹介記事掲載

予定

- 4/24 会報109号発送(慶応高校物理教室)
 ○ 定例見学会
 5/25 ・ 6/22 ・ 7/27
 8月は上旬に夏休み見学会を数回予定しています。



壊された地下壕入口

航空本部等地下壕東側入口7aが壊され埋められてしまいました。詳細は次回以降の会報でお知らせします。これ以上文化財が破壊されないために会員の方のサポートをお願いします。

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで TEL045-562-0443(喜田 午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 TEL 045-561-2758
 (見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町 2-1-33 TEL 045-562-0443
 ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会